

第1回 自主研修会（若手）

5月27日（水）に、立山町立雄山中学校より山西真司先生にお越しいただき、道徳の授業に関する講話をいただきました。

道徳の授業の進め方や、授業に対する心構えなど、多くのことを教えていただきましたので、共有します。

（1）教師としての心構え

道徳は非常に自由度が高く、唯一の「正解」がない教科である。若手教員が肩肘を張らず、児童生徒とともに授業を楽しむための心構えとして、講師自身の経験から以下の教訓が示された。

・教師の3要素

教師は「1/3が教師、1/3が人間、1/3がピエロ」であれ。人間らしさ（弱さ）を隠さず、時には生徒の前で意図的に演じて見せることが、子どものハートを掴む。

・道徳と学級経営の連動

道徳の授業が上手な教員は、教科指導や学級経営も優れている。子どもの思いをすべて受け止める「受容」の技術と、授業内の「秩序（規律）」を作る力が共通しているためである。

（2）道徳授業の本質とゴール

・究極の「楽しさ」の追求

道徳で最も大事なことは、授業が「楽しい」こと。ここでの楽しさとは、おふざけではなく「新しい学び（発見）があること」を指す。

・全員をヒーロー・ヒロインに

算数や国語と違い、道徳は全員が「心」を持っているため、誰もが活躍できる。学校で最も正式な場所である「授業」で全員を活躍させることが重要である。

・道徳と生徒指導の相補性

行動を律することで心を磨く「生徒指導」に対し、道徳は「心を耕すことで、素敵なしぐさや行動を引き出す」アプローチである。10年後に赤信号を渡るのを一瞬躊躇するような、持続的な心の種蒔きを目指す。

(3) 質の高い授業づくりのポイント

授業のプロセス	具体的実践のポイント
事前準備	学習指導要領解説の「内容項目の指導の観点」を読み込み、文科省が求める力のゴールを明確にする。また、教材の副詞や形容詞に注目し、主人公の「道徳的な変化（成長）」やそのきっかけ（助言者）を読み解く。
導入	できるだけ短く行う。最初から「家族について考えよう」などと誘導（矯正）すると、子どもは枠にはまった意見しか言わなくなる。中心発問に時間を残すため、キーワード等で関心を引くのみに留める。
展開 （中心発問）	多様な価値観や意見が飛び交う「斜め上の発問」を1発用意する。出た意見はすべて受容する。中心発問の前にワークシートに意見を書かせるのはNG。書いたものを読むだけの授業になり、他者の意見に影響されて心が深まるダイナミズムが失われるため。
展開（補助・ 問い返し）	物語の状況を押さえる補助発問は1～2個に絞る。授業の深みを決めるのは「問い返し発問」である。苦手な場合は「もうちょっと詳しく教えて？」と促すだけでも、子どもは自ら語り始める。
終末 （内面化 ・評価）	「これからどう行動するか」といううわべの言質を取る態度は最悪である。登場人物の「この後の行動や心情」を想像させることで、自然に自己の生き方とリンクさせる。評価（所見）は形式よりも、心を耕した児童生徒への「最高のラブレター」として褒めたい部分を具体的に書く。

(4) 模擬授業による実践検証（概要）

研修後半では、教材『ブレービーとネッピーの1175試合』を用いた模擬授業が実施された。

元ドラフト1位のプロ野球選手がマスコットキャラクター（ピエロ役）となり、野次に苦しみながらも、ある親子の「面白かった、また見たい」という言葉をきっかけに、仕事への誇りと喜びを見出していくストーリーである。

山西先生は作中に登場する3回の「涙」の意味（1回目：悔しさ・情けなさ、2回目：貢献の喜び、3回目：やりきった達成感）を子どもたち（受講者）に問いかけ、「働くこと・社会に貢献することの本質」へと迫る展開を実演した。

(5) まとめ（総括）

AIが日進月歩で進化する現代において、本当に求められるのは単に「賢い子」ではなく、「愛される子」「一緒にいたいと感じさせる粋な子」である。そうした人間的魅力を育てるプラットフォームこそが道徳の時間であり、教員自身がワクワクしながら、安心して悩み、子どもたちと共に心を耕し続けることが求められている。

(6) 参加者の感想（一部）

- ・ 道徳を難しいと考えて今までしてきましたが、自由で楽しいものが本来の道徳だから、これからは、楽しめるような時間になるようにしたいなと思いました。導入は丁寧にすべきものだと思っていたが、短くし、中心発問に時間をかけることを意識して授業してみようと思いました。
- ・ 先生の受容の姿勢を感じました。子供の意見の意図をもっと知りたい！ということ！と本気で知りたいという思いをもつことで子供達は自ずと授業に乗ってくると思うので、自分もピエロになれるよう日々努力したいです。
- ・ 児童の発言を受容する大切さを改めて感じました。山西先生の模擬授業を見て、発言の一つ一つに「うんうん。そうだね。」相槌を打たれながら話を聞いていて、自分の思いを受け止めてくれる安心感を感じました。学級全員をヒーロー、ヒロインにするためにも、発表をしても大丈夫だ、怖くないという安心感が大事だと思うので、私も子供の発言に対する反応の仕方を意識して授業をしていきたいと思いました。
- ・ 学級全員をヒーローにできるようにするのが自分の目標です。一人一人当てるのが難しい中でも、必ず発言できる環境を作ることも教師の手立ての一つだと思う。生徒の意見を使いながら、授業をしていきたい。
- ・ 道徳が好きでこの研修会に参加させてもらいました。自分自身楽しんで教材研究をしていたつもりですが、それが生徒たちに伝わっているかはわかりません。表情や声色にも意識を向けながら、一緒に楽しんでこれからの授業をつくり上げたいという気持ちが高まりました。ありがとうございました。
- ・ 道徳だけではなく、教科の授業や学級経営にもかかわってくるものを教えていただきました。今後授業や指導の参考になると思います。そして、山西先生の模擬授業を体験させて頂き、受容することを改めて捉え直すことができました。また意見を受容したうえで、問い返しをどのように行っていくかを自分の経験の中で、あるいは教材研究をして磨いていきたいです。

(8) 当日の様子



(9) センターより連絡

- ・ 研修会で使用した資料は、センターでも保管しています。「資料が欲しい」という場合は、センターまでご連絡ください。